



NO.93

2021

11・12月号

〒746-0082 周南市大字下上2093-3 ☎ 63-5769

今回の総選挙、社民党が分裂して初めての総選挙でしたが、獲得議席は一議席となりました。かろうじて社民党の灯が消えてしまうことはありませんでしたが、ここからスタートしかありません。

土井たか子委員長の「山は動いた」「がんこに平和」「げんきに福祉」のスローガンに魅せられて地方議員になりました。

一地方議員の立場としても、「経済格差の縮小を国家の責任において行う。貧困層も含めた人々の生活を保障する。」という社会民主主義の芽を摘んではならないと思っています。

全国の保健所が1991年には852か所あったのが、2021年は470か所と30年間で半減近くに削減されていた事は、

とりわけ新型コロナウイルス感染症拡大防止対策に代表された公衆衛生や医療の観点からも今後もこういった削減の方向でいいのか疑問に思います。

憲法は「経済的な能力に応じて税を負担する」ことを定めていますが、今日では法人税率や所得税最高税率の引き下げ、消費税率の引き上げなど相次いでなされ、近年の税制は「応能負担」とは全く逆方向に進んでいます。

その上、対GDP比目標2%も念頭に防衛関係費の倍増を目指そうとする（世界第3位の軍事大国化）動きも顕著であり、何としても歯止めをかけなくてはならないと思っています。

〒746-0082 周南市下上2093-3

周南市議会議員 小林 雄二



「徳山大学公立化のより良いあり方検討委員会」設置を求める住民直接請求の議案が、市側の意見が付されて提出され、臨時議会が開催される

臨時会で「徳山大学公立化のより良いあり方検討委員会」設置を求める市民直接請求の議案が審議されました。

(臨時議会は10月15日、18日、19日に開催され、請求者の意見陳述は18日に行われました。)

地方自治法に定められている今回の直接請求は、条例の制定・改廃の請求であり、選挙人名簿登録者数の50分の一以上で請求されます。

今回、2,644名の署名で、総選挙における署名収集禁止期間制限がなかったら、1万人は優に超えるであろうとも請求者意見陳述の中で述べられていました。



検討委員会の設置趣旨は、市民の英知を結集し、より良い公立化のあり方を検討する

検討委員会の設置趣旨では、第一条の中で、「徳山大学の公立化について、市民一人ひとりが大学への誇りと愛着を持ち、本市の地方創生だけでなく、周南地域を中心とした広域的な交流や関わりを持ち続ける事が出来る大学として生まれ変わり、大学を生かしたまちづくりを進めるため、市民の英知を結集し、より良い公立化のあり方を検討する徳山大学公立化のより良いあり方検討委員会を設置する」とあります。



この直接請求について付された市側の意見はあまりにも門前払い的では

この直接請求についての、市の意見は、「市民の皆さまが高い関心をもって真剣に考えて頂いているものと真摯に受け止めています」と極めてフレンドリーな受け止めではありますが、結論的には、「これまで適切に積み上げてきたプロセスを再度見直すことは、不必要に多くの時間と労力を費やしまちづくりを停滞させることになる。」「公立化に向けた準備を進めている今この状況で、本条例を制定する必要はない。」と、結論付けられており、あまりにも門前払い的な言い回しは否めません。

もっとこの直接請求に対して、よりそつた対応と表現は出来なかったのかと残念でなりません。



市民一人ひとりが「知の拠点への」誇りと愛着が何よりも大切

新たな大学の名称は県東部をフィールドとした地域貢献型の大学として更なる発展を遂げていくため、「周南公立大学」に刷新する。「周南公立大学」をまちづくりの知の拠点として取り組んでいきたいとも言われています。

周南市学園台のこれからの公立大学、国立高専が周南市の「知の拠点」として発展するには、市民一人ひとりが「知の拠点への」誇りと愛着が何よりも大切です。

「市民の皆さまが高い関心をもって真剣に考えて頂いているものと真摯に

受け止めています」との姿勢は、これからも、まちづくりにも大切なものであり、評価しているところでもあります。

市民のための「ノーサイド」は市長の度量をも示すものもあり、目標を達成するためには全方位的な対応が重要です。「急がば回れ」ではないでしょうか。

### ◆ 設置条例に賛成者は私を含めて3人でした。圧倒的多数でこの条例案は否決されました

私は、市民住民の権利としての直接請求の重みを最大限尊重する立場であり、市民の声に耳を傾け、意見を取り入れる姿勢は、地方自治にとって生命線であると思っています。

これから周南市のまちづくりに「公立大学」がはたす役割が重要であるからこそ、大学への市民の誇りと愛着をより一層深めるためにも、周南市「徳山大学公立化のより良いあり方検討委員会」設置条例に賛成しました。賛成者は私を含めて3人と、圧倒的少数でこの設置条例案は否決されました。

### ◆ 連合山口の列島クリーンキャンペーンに参加



去る10月30日（土）に、2021年度連合山口県央地域協議会主催の列島クリーンキャンペーンに参加しました。

J R 徳山駅周辺及び市街地のゴミ拾いが6班に分かれ、約2時間にかけて実施されました。

コロナ禍でもあり、マスク着用とソーシャルディスタンスに留意され、周南市役所本庁舎東の児玉公園に8時半から時間差で集合し、時間差で各班が出発されました。

燃えるゴミや、燃えないゴミ、空き缶や金属類も収集されましたが、たばこの吸い殻や、マスクのポイ捨ても結構ありました。

私は、十数人の新入社員のグループと一緒に班でした。大変有意義な時間を過ごすことが出来て楽しかったです。本当にありがとうございました。

### ◆ ヤングケアラーへの支援応援について

全国の市町村要保護児童対策協議会に加え、この度初めて子ども本人及び学校を対象とした全国規模の研究事業「ヤングケアラーの実態に関する調査研究」において作成された報告書によると、世話をしている家族がいると答えた子どもは、中学2年生で5.7%だったと報告されています。

その背景には、少子高齢化や核家族化の進展、共働き世帯の増加、家庭の経済状況の変化といった様々な要因がありますが、周南市は、旧徳山市の時

代から、親孝行に尽くした、徳山藩生まれの孝女およねにちなみ、孝女およね顕彰会におかれては、毎年、日常生活での孝養が他の模範となる児童・生徒を表彰されています。

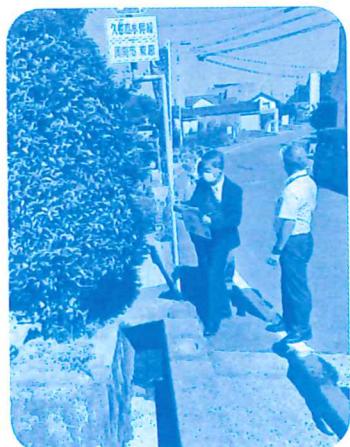
他市にはない心温まる活動であり、継続した今後との拡充した取り組みを大いに期待しています。

### ◆ 青春期を生き生きと生活する子ども達のために

およね賞を受賞された児童の教育長への表敬訪問の時の、その写真のハウドリーな笑顔に接したとき、その青春期を充実した、そして、今後とも、生き生きと生活されるであろうことを確信しています。

日常生活の中で、青春期を生き生きと生活する子ども達の為に、その生活を積極的に支援応援する立場でヤングケアラーの取り組みを積極的に行って頂きたいと思います。

### ◆ 市内通学路の視察と併せて学校トイレ洋式化の遅れている実情も見ました



全国的にも児童生徒の通学路の安全管理が問題となっており、児童生徒の交通事故がマスコミにも取り上げられるなど、

通学路の安全安心を確保することは喫緊な課題となっています。

周南市においても通学路対策一覧表(46か所、令和3年8月)が作成され、今後も再点検による通学路の安全安心確保が予定されています。この中から重点的に8か所抽出し、今現在の実情把握を目的として視察を行いました。(10月5日 9時~14時半)

詳細は会派の視察報告書に記載していますが、とりわけ通学と通勤の時間帯が重なる時間は、構造的な改善も勿論ですが、「交通立哨」や「子どもの見守り活動」も重要ではないかと感じています。

### ◆ 学校トイレの洋式化の達成目標率は75%

学校トイレの洋式化率は令和2年度末時点現在で、小中学校全体で45.7%となっています。目標達成化率は75%までもっていきたいとのことでした。

学校トイレでの感染症対策として、改修時に手洗い場を自動水栓化している自治体が半数以上を占めることが、「学校トイレ研究会」の昨年度調査(令和2年)で判明しています。

計画的な改修計画と、自動水栓化の普及を求めました。

**どんな事でも  
ご相談ください**

《連絡先》TEL 0834-63-5769  
小林 雄二